

事業主体者

蔵王温泉観光協会

住所

事務局: 山形県山形市蔵王温泉103

電話

023-694-9005

URL

<http://www.zao-spa.or.jp/>

事業概要

国内のスキー人口減少に伴い、冬の山形蔵王への観光客が減少する中、外国人観光客が徐々に増加している。冬の蔵王の外国人観光客はスキー客(主にオーストラリア、韓国、中国)と樹氷見学者(主に台湾、香港、東南アジア諸国)に大別できる。

最近、雪が降らない地域の外国人観光客がスキーに対して興味を持ち始め、スキー学校に入校する人数が増加していることから、VR映像による疑似体験をしてもらい、スキー学校への勧誘ツールとして活用することや、スキーをしない観光客がスキーの楽しさと雄大な蔵王のゲレンデ風景を疑似体験し、冬の蔵王の魅力や魅力を存分に体験してもらうとともに、スキーへの関心を高めてもらうことを目的に制作した。

平成28年度・平成29年度の東北観光復興対策交付金を活用して岩手県の安比高原スキー場(八幡平市)、仙台国際空港を加えた3者でインバウンド誘客対策を実施し、その事業の一環とし

て平成28年度はドローン撮影による紅葉シーズンの風景、冬のスキー場ゲレンデや樹氷の風景をそれぞれ約5分の動画に編集して、WEBサイトで公開している。

平成29年度にはVRコンテンツを活用した事業を実施した。その内容は、滑走コースをVRで体験できるもので、中央ゲレンデから上の台ゲレンデに向かって滑るコースと樹氷原から百万人ゲレンデ、横倉ゲレンデを滑るコースの2つが設定されている。

蔵王の特徴である「樹氷」が見えるコース、滑走コースのスケール感がわかる撮影ポイントを選定して撮影に臨んだ。VR酔いを考慮してそれぞれ約3分の映像に編集。また編集の段階で、画面上部に滑走速度と標高を文字スーパーで表示、映像に合わせたBGMによる演出も行っている。

スキー滑走を疑似体験できるVRゴーグルを蔵王ロープウェイの樹氷高原駅と蔵王中央ロープウェイ鳥兜山頂駅に設置した。設置期間は平成30年2月～3月。

効果や課題

スキー場での設置期間体験者数は約4,900人であり、そのうち約8割が外国人観光客である。単年度の補助金による事業であったため、スキー場での展示は平成30年3月で終了した。

しかし、スキー場での体験者の評価が高かったことから、設置場所であった各ロープウェイの管理者から再度設置して欲しいとの要望が来ている。今後その要望にいかに応えられるか検討中である。

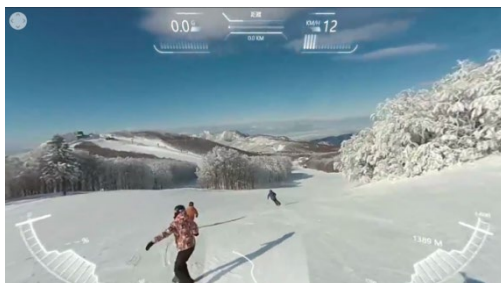
なお、平成30年4月以降は、国内及び海外で開催される旅行博覧会などの誘客プロモーションイベントでVRコンテンツを活用している。来場者にスキー滑走を疑似体験してもらうことで、インパクトのあるプレゼンテーションツールになっており、体験者の評価が高い。海外はオーストラリア、台湾、タイ、国内は横浜市、大阪市でのPRイベントで本コンテンツを活用。

事業費

約200万円(VRコンテンツ制作と機材費)



蔵王中央ロープウェイ鳥兜山頂駅に設置されたVR機器と説明用パネル



360度のVR映像。標高や滑走速度などを映像に合わせて表示



UNWTO世界観光会議の展示ブースで活用した様子

